



FUJI WOMEN'S UNIVERSITY

No.66

July.10, 2018

藤女子大学
広 報

藤



人間生活学部海外研修 in オーストラリア

CONTENTS

- 巻頭言～藤女子大学未来共創ビジョン～／2
- 新入生へのエール／4
- i.Learning Space開設から1年／8
- 藤女子大学の海外・国内留学／13
- 私のカレッジライフ～チャレンジ編～／14

巻頭 言



藤女子大学未来共創ビジョン



学長 ハンス ユーゲン・マルクス

わたしたちは、2025年の建学100周年を見据えて、昨年来、五項目からなる「藤女子大学未来共創ビジョン」を掲げています。一番目の「未来を切り拓く藤」は、キリスト教的世界観や人間観に従って、学生一人ひとりと向き合い、豊かな教養を基礎に、各自の知性・感性・想像力・思考力を育てることによって、地域や世界の人々の幸福増加に貢献できる人材の育成に対して、従来のコミットメントを再確認するものです。

二番目の「地域とつながる藤」は、北海道唯一の四年制女子大学として積み重ねてきた社会貢献に立脚しています。しかし、引き続いて地域で敬愛されている大学であり続けるためには、地域に対して本学の教育研究資源をいっそう広く開放すると共に、地域の様々な取り組みにより積極的に関わり合っていくことによって、これまでもまして、豊かな地域文化の構築に貢献することは得策でしょう。

三番目の「世界ではばたく藤」については、伝統ある語学教育を誇ることができますし、これをいっそう推進するため、今年、藤ACEプログラムが始まりました。しかしながら、留学生の派遣・受け入れなど、人と人との国際交流を推進するため、財政・施設面の裏付けも含めて、これまでより大胆な取り組みが必要であることを痛感いたしております。

多くの同窓生の活躍ぶりが証しているように、四番目の「個性の花咲く藤」もしっかりした実績によって裏付

けられています。第四次産業革命によって代表されるグローバルな変化が加速する中で、迅速に判断し、行動し得る人材がますます求められるに違いありません。ですから、チャレンジの精神に加えて、問題発見・解決型の思考を育むことは、重要性を増していく課題でしょう。

五番目の「信頼される藤」も、建学以来の取り組みによって裏付けられています。学生一人ひとりが掛け替えのない、まさしくオンリーワンとして大切にされてきたので、藤は早くから地域の信頼を受けてきています。しかしながら、その実績の上に胡坐をかくわけにはまいりません。今年を分岐に、十八歳人口は再び減少傾向に転向し、建学100周年までは、10万人以上も減ります。大学進学率を現状の50%と仮置きすると、5万人の受験生がいなくなる計算です。こうした中で「信頼される藤」であり続けるためには、これまでもまして、全構成員が一丸となって、あらゆる面で努力を積み重ねることは急務です。

冒頭の「わたしたち」は「教職員・学生・卒業生」の三位一体を指す代名詞です。未来共創ビジョンを具体化するアクションプランでは、学生会執行部が施設・設備の分野で快適なキャンパスの整備に関わっており、社会貢献推進会議には卒業生二名が参加しています。将来的には「共創」の枠を広げることも良いかもしれません。

新副学長就任 あいさつ

副学長
池田 隆幸



このたび思いもかけず副学長という大役を仰せつかることになりました。前任の藤井義博副学長、石田晴男副学長の功績の前にはただただ頭が下がる思いです。お二人の功績と精神を引き継ぎ、ハンス ユーゲン・マルクス学長の補佐をしながら皆さんと一緒に頑張っていけたらと思っています。

さて、大学を取り巻く環境はますます厳しさを増してきております。20年ほど前から起り始めた18歳人口の急激で連続的な減少は、大学進学率の上昇にもかかわらず、大学受験者数を減少させてきております。幸い、本学はその荒波に揉まれつつもうまく波を乗り越えてきた大学と言えると思います。しかし、そろそろそれも限界に近づきつつあることは、ここ数年の入試状況を見れば明らかです。

その中で、本学は、現在藤学園100周年に向かう勢い

を感じつつ、五項目の未来共創ビジョンを掲げ、その具体化策としてアクションプランを設定し、実現に向けて邁進しているところです。言うまでもありませんが、藤女子大学は2学部6学科の小さな大学で、文学部がある北16条キャンパスと人間生活学部がある花川キャンパスの二つに分かれています。それぞれ良いキャンパスではありますが、藤女子大学としての一体感がやや弱く、全体としては二つの単科大学の集まりのような雰囲気であると感じていました。しかし、これからは選ばれる大学として社会にアピールし、優秀な卒業生を輩出する正のスパイラルを回しながら、さらに発展させることが必要です。そのためには、未来共創ビジョン達成に向け、本学の力を一つに合わせるが必要と強く感じております。困難に直面すると、ともすれば組織の中でスーパーマンを求める声が大きくなることがあります。しかし、残念ながらその様な素晴らしい人は近くにいないため、今いる自分たちで何とかしなければならぬのが常です。

これからの藤女子大学は、未来共創ビジョンに掲げているように、この広報藤をご覧の教職員、同窓生、学生と保護者の皆様と共に創りたいと考えております。はなはだ不慣れで力不足とは思いますが、藤女子大学の発展のため精一杯努力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新任教職員紹介

英語文化学科
准教授

ジェレミー・レッドリック
World Literature



英語文化学科
講師

マーティン・J・マーフィー
アジア地域研究学、
国際関係科（政治科）



文化総合学科
講師

上原 賢司
グローバル正義論、
現代政治理論



人間生活学科
教授

和田 雅子
広報、プロジェクトマネジメント



人間生活学科
准教授

丸山 正三
保健医療ソーシャルワーク、
スクールソーシャルワーク



人間生活学科
准教授

松田 剛史
ESD
(持続可能な開発のための教育)



保育学科
教授

原田 公人
特別支援教育
聴覚障害教育



保育学科
教授

小山 和利
カウンセリング論、
臨床発達検査法、教育相談



保育学科
教授

稲實 順
造形表現



保育学科
教授

大室 道夫
生活科教育、総合学習教育



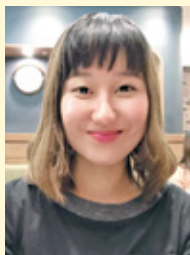
保育学科
准教授

木本 理可
運動生理学、健康科学



新入生へのエール

〈文学部〉



様々な事に挑戦し、悔いのない学生生活を!

英語文化学科 4年
S.Mさん

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活に慣れてきた頃かと思います。大学での日々はあっという間に過ぎていくので、興味を持った事は臆したり先延ばしにしたりせず、やりたいと思った時に挑戦すると良いと思います。

私は大学の授業と並行して、短期留学やボランティア、資格取得やサークル等幅広く挑戦しました。まず留学はオーストラリア、イギリスに行き、ボランティアは東日本大震災後の復興支援、カンボジアの孤児院での教育交流、海外の方に日本の文化を教える異文化交流、小学生への教育支援等に参加しました。留学は語学力向上だけでなく、学習の動機付けに繋がったり、海外での生活により視野が広がります。ボランティアも達成感が大きく

刺激も受け、自分自身の成長を実感出来ます。どちらも海外や他大学の友人ができ、交友関係が広がります。これらに参加する際には目標を明確に、また準備を念入りにすると、充実した体験になると思います。

また資格取得は自分に自信を持ったり知識を増やす為や、将来の選択肢の幅を広げる為、英語やドイツ語等の語学系、ITパスポートやMOS等に挑戦しました。現在は教員免許を取得する為、教職課程を受講しています。

大学生は勉強やサークル、アルバイト等忙しいと思います。でも何をするにも無駄な事は無く、どこかで将来の糧になるので様々な事に挑戦し、出会いや繋がりを大切に、後悔のない学生生活を送ってください。有意義な学生生活を過ごせるよう応援しています。

2018年度 英語文化学科 新入生



未来の扉を開こう

日本語・日本文学科 3年
S.Hさん

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんが入学した大学には、たくさんの可能性があります。単位を取得するために自分で授業を選択したり、アルバイトを通じてお金を得る喜びを感じたり、学生生活を豊かにするためにサークルに入ったり、ボランティア活動に参加したり。大学とは、自由と責任を同時に得、社会人になるための一歩を歩みだし、未来をつかみ取ることができる場所です。こうしていろいろな分かれ道の前に立つことになるのですが、その中で皆さんに質問です。大学生活が三か月過ぎた今、皆さんはどんなサークル・部活を選びましたか？私自身は、北16条執行部、大学祭実行委員会(藤陽祭実行委員会)、アイランズ常駐スタッフ(Fuji Student Assistant)に所属

しています。また、夏にはYOSAKOIボランティアに参加しました。多くの団体に所属し活動していくことは忙しく、責任も増えていきますが、その分毎日が充実しています。しかし、学生の本分は勉強です。講義はもちろんのことゼミ発表や実習などが待っています。勉強との両立は簡単なことではありませんが、その中で自分を見失わないためには、空きコマや放課後などの隙間の時間を確保し、その時間で今後の計画を立てるといった工夫と「小まめさ」が必要だと感じています。ひと団体だけではなく、いろいろなところに所属して、自分の視野を広げてみましょう。さあ、多くのキラキラを自分の可能性のために蓄積させてはみませんか？

2018年度 日本語・日本文学科 新入生





人生の充実のために

文化総合学科 4年
M.Fさん

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。大学生活にはもう慣れたでしょうか？

多くの人にとって「学生」でいる最後の四年間となります。大学は、それまでの義務的、機械的な学びとは異なり、自らが主体となって興味や疑問を追求することができる場です。大学生になったからには、やはり目一杯に学んでほしいと思います。

ところで、皆さんにとって「学び」にはどのような意義がありますか？ 今まで数学、語学、地歴、科学などを習い、「こんなことを勉強して何の役に立つの？」と思ったことがある人も少なくないのではないのでしょうか。確かに、難しい数式や偉人の名前や年号など、覚えたところでこの先使う機会はそれほど

ありません。特に文系の大学では、学んだ知識が将来の就職活動に直接結びつく機会があまりないため、社会的にも軽く見られがちです。

しかし、学びというのは自分自身を深めるもの。たとえその場で役に立たなくても皆さんの人生を豊かにする何かがあるはず。ぜひ、「この先、役に立つかどうか」ではなく「自分が楽しいかどうか」という物差しをもって学びに取り組んでみてください。大学で勉強することの最たる意義は、「楽しい」ことにあるのです。

勉強したいことがあってこの大学に入った人も、そうでなかった人も、与えられた自由を、人生の充実のために活用してほしいと願っています。自分の興味関心を深め、視野を広げる楽しい四年間としてください。

2018年度 文化総合学科 新入生



〈人間生活学部〉



新たな旅人達へ

人間生活学科 4年
A.Rさん

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活にも慣れてきた頃かと思います。大学生活は卒業するまでに4年間もあり学業の他にも、サークル、アルバイト、ボランティア活動、趣味や資格取得など自分が思うことを自由に挑戦できる期間でもあります。皆さんにはこの時間を有意義に自分の意思を大切に積極的に過ごしてほしいと思います。ただ自由に気を抜いて過ごすのではなく、計画性を持って時間を大切に使い学生のうちにしかできない貴重な経験を積んでください。

また、大学ではこれまでとは違い、学生以外の多くの人と関わることができます。それによって自分にない考えや発想などたくさんの刺激を受け自身の成長につなげてほしいと思います。そして自身の個性を

大切にして、既存の考えにとらわれず自分にしか切り開けない新たな道を作りたいと思います。

人間生活学科では、幅広い分野を学ぶことができるので、いろいろな講義や実習を受けながら自分の興味のある分野を見つけてください。また、初めから自分のやりたいことが決まっている人も、興味のある科目に固執するのではなく、幅広い科目を受講して自分の視野を広げてほしいと思います。

4年後、大学生活を振り返った時に仲間との楽しい思い出や頑張ったこと、苦勞した経験など自分にとってプラスとなる出来事がたくさんできるように充実した日々を送ってください。

2018年度 人間生活学科 新入生





「面白さ」を見つける

食物栄養学科 4年
Y.Hさん

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。藤女子大学での学生生活にも慣れてきた頃でしょうか。

食物栄養学科では1年次からさっそく調理実習や実験があります。毎週のように調理着と白衣を着て、レポートや栄養価計算に苦戦する日々を過ごした記憶があります。おかげで電卓を打つのが速くなりました。学年が上がるにつれて専門科目が増え、3年次では臨地実習、4年次では卒業研究、国家試験対策、就職活動が待っています。思い描いていた学生生活と異なっていたり、想像以上につらいと感じたりすることがあるかもしれません。私はそうでした。そんな時は、それを乗り越えてきた大勢の食物栄養学科の先輩たちがいることを思い浮かべてみてください。意外と何とかなるものです。

そして、大変さの中にも、ぜひ「面白さ」を見つけてほしいと思います。ほんの少しの疑問でも図書館で調べてみたり、経験豊富な先生方に直接話を聞いてみましょう。そんな日々を過ごしているうちに、皆さんもきっと管理栄養士がさまざまな可能性にあふれた職業であることを実感できると思います。

多くの人にとって学業に専念できるのはこの4年間で最後です。アルバイトや友人と過ごす時間を息抜きにしながら、思う存分学びましょう。食物栄養学科にきて良かった!と思える場面が、これから日常でもたくさん出てくると思います。皆さんが素敵な藤女子ライフを送れますよう願っています。

2018年度 食物栄養学科 新入生



挑戦のすゝめ

保育学科 4年
O.Rさん

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。高校から一転し、大きく変わる学生生活、皆さん楽しんでますか? どのようなサークルに入り、どのようなアルバイトにするか迷っている方もいると思います。私も入学した時はたくさんあるサークルの中から何に入ろうか悩んだ記憶があります。今では悩んだ結果入ったサークルは辞めてしまったのですが、良い思い出となったので悩んでいるならやってみるといいかもしれません。

皆さんは保育学科を選ぶ時どのようにして選びましたか? 保育者になりたいと思った方、まだ保育者になるか迷っている方もいると思います。私は後者の方でした。入学して専門科目を学ぶ中で、保育ではなく他のこともしたいと気持ちが揺らぎ、

一般就職を考えた時期もありました。しかし、実習で子どもと接するうちに保育の魅力に気づき、最終的には子どもと関わる仕事をしたいと思い保育の道に進むことを決めました。現在、私の周りには一般就職を目指している人もいます。どちらの道に進むにしても言えることは4年生になった時に何か1つでも大学生活でやりきった、頑張ったと胸を張って言えるようなことを見つけることだと思います。それは大きな財産になると思いますので一生懸命取り組める事は何かを考え、挑戦してみてください。そうすると自分のやりたいことが徐々に見えてくると思います。皆さんが4年間の大学生活の中で自分のやりたいことを見つけられるよう応援しています。

2018年度 保育学科 新入生



〈大学院〉



新入生の皆さんへ

人間生活学研究科
人間生活学専攻 2年
S.Aさん

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学院人間生活学研究科2年生を代表して、心より皆さんを歓迎いたします。

私は家庭科教諭として私立高校に勤務した後、大学職員として勤務しながら、大学院で学んでいます。

ところで、皆さんはどのような目標をもって、大学院に入学しましたか？ 私は友人が大学院でのびのびと学んでいる姿を見て、有意義な学生生活を夢見て入学を決めました。現実には、学部生の頃の十数年前とは異なり、頭が固くなっていたり、素直に議論することができなくなっていたりと、苦しいこともありました。しかし、先生や、年代や立場の違う方と少人数で議論することで学びが深まり、贅沢な時間を過ごしています。

大学院生活をスタートさせる新入生の皆さん、2年間という時間を大切に、入学当初の目標を忘れずに毎日をご過ごしてください。私は仕事との両立のため、3年間の長期履修を選択しましたが、1年目はあつという間に過ぎてしまいました。2年生となった今、もっと意欲的に学んでいればよかったなと感じています。私が研究に真剣になれなかった理由に、論文がデータをもとに文章や図で表現され、無機質に見えていたことがあります。しかし、論文の背景には執筆者が実際に見たり聞いたり感じたりして感動して発見されたことが記されているのだと気づき、研究に向き合えるようになってきました。これからは新入生の皆さんと課題や研究に向き合い、充実感と達成感を得られる大学院生活を送りたいと思っています。ともに頑張りましょう。

2018年度 大学院 新入生



退職教職員

英語文化学科 教授 新井 良夫 (音声学、英語学)

英語文化学科 准教授 ウィリアム・アーロン・クラウス
(Ancient History and Classics)

人間生活学科 教授 飯村 しのぶ (生活経営、生活構造)

人間生活学科 教授 橋本 伸也
(社会福祉学、リハビリテーション科学)

保育学科 教授 杉浦 篤子 (造形美術、美術教育)

保育学科 教授 鈴木 眞知子 (言語治療学)

保育学科 准教授 中島 寿宏 (体育科教育)

保育学科 准教授 山田 りよ子 (幼児教育)

財務課 坂田 美智江

2017年度表彰式

2017年度の「学生部長賞」「学生部長特別賞」が決定し、学生部長より表彰されました。おめでとうございます。

学生部長賞

◆チアダンス部

厳しい練習に耐え全国大会にまで出場したこと、クリスマス会等で学内行事に積極的に参加・協力したことが評価されました。

◆剣道部

北海道予選で優秀な成績を収め、初の全国大会に出場したことが評価されました。

学生部長特別賞

◇英語文化学科4年

佐藤 来美さん、安田 みのりさん
学生主体の観光コンペティションに連名で応募し、その作品が高い評価を受け、優秀な成績を収めるとともに、本学の知名度アップに貢献したことが評価されました。

◇食物栄養学科3年

内田 夏輝さん
海外に渡ってボランティア活動に従事し、今回はその活動をコンクール発表して、優秀な成績を収めたことが評価されました。

お心
祈り
より
ご冥
福を
いた
します。



元藤女子大学 文学部 英語文化学科 教授
関 憲治 様

2017年12月29日ご逝去 85歳
1932年3月30日生まれ。1951年北海道大学文学部英文学科卒業、1955年北海道大学大学院文学専攻科修士課程修了、1957年北海道根室高等学校教諭、1959年北海道学芸大学助手、1963年同講師、1965年同助教授、1971年札幌医科大学助教授。1981年藤女子大学助教授として着任、1982年同教授。2002年3月に定年退職。在職中には図書館長を併任、退職後も非常勤講師を務められ、長年本学のためにご尽力頂きました。



元藤女子大学 文学部 国文学科 教授
佐藤 宣男 様

2018年4月10日ご逝去 81歳
1937年3月18日生まれ。1959年東北大学文学部国語学科卒業、1961年東北大学大学院文学研究科修士課程修了、1964年東北大学文学部助手、1966年山梨英和短期大学講師、1968年同助教授。1969年藤女子短期大学助教授(藤女子大学併任)として着任、1974年同教授。学生の教育にご尽力頂き、1985年3月に退職。

i. Learning Space開設から1年

教務部長 名畑 嘉則

アイランズとは

2017年度に完成した北16条キャンパス新校舎2階に、これまでの校舎にはなかった、彩り鮮やかで明るく開放的なスペースが設けられました。これが「i.Learning Space」、通称「アイランズ」です。「i」は「interactive」「international」「information」… etc.の頭文字から取られたもので、こうした様々な意味を兼ね具えた「アクティブな学びのための空間」をコンセプトとして開設されました。昨年度は、初年度にもかかわらず、多くの学生に利用され、学内で居心地の良い場として受け入れられていることが伺えます。



アイランズの運営

アイランズの運営は、制度上は2016年度にスタートした「アクティブラーニング(AL)推進会議」が関わる形になっていますが、日常的、実質的な運営業務は、教務課と学生スタッフ「FSA(Fuji Student Assistants)」が担当しています。FSAは、アイランズ内の各スペースの利用予約の管理やPC等の機器貸し出しなどの業務を担当するとともに、アイランズ運用上の課題や活用の企画などについて、スタッフ間で議論し合い、AL推進会議とも連携しながら運営に積極的に参画しています。



FSA設置の趣旨

AL推進会議がSA制度導入を大学に提案した背景には、幾つかの意義が含まれています。

一つめは、「ピア・サポート」の導入です。学生間の学びを通じた交流の場としてアイランズを機能させることがAL推進会議の希望ですが、そのような交流を生み出すには「仕掛け」が必要になります。その「仕掛け」の役割をFSA諸君に担ってもらえれば、というのが狙いです。AL推進会議では「ピア・サポート」の本学における導入として制度を位置づけており、FSAの業務としては、スペースの管理だけではなく、実は学修支援を担うスタッフとしての役割も含まれています。学生同士の支援により、教職員では及ばない点、話にくい点についても対応することができ、より自然な支援が可能になるものと期待しています。

もう一つは、学修支援業務への従事による、学生自身の成長やより深い学びの実現という意義です。近年「アクティブラーニング」という言葉が盛んに使われますが、「学修者の主体的な学び」がその本質であるとすれば、学生による授業支援・学修支援の取り組みそのものが「アクティブラーニング」の実践と位置づけられます。どのような支援が必要か、どのような取り組みが可能か、そのためにどのような活動をするのがよいか、その実現に何が必要か…、考えることは沢山あるでしょう。

課題の発見、課題の解決に向けたアプローチ、立案、実践等々の経験を通じて、FSA諸君が大いに成長を遂げてくれることを願ってやみません。



アイランズでの実習指導

保育学科 教授 高橋 真由美

保育学科の2年次に開講している「乳幼児・障害児実習」は実際に系列の幼稚園と保育所で実習を行う授業です。この授業は、活動計画を立て、指導案を作成し、活動を行い、それらを検証するというサイクルで行っています。学年を幼稚園実習、保育所実習、大学での準備の3つのグループに分け、準備グループの学生は、4講と5講に北16条キャンパスで活動計画や指導案を練っています。この授業での私の悩みは、7~8名のグループ活動のため、話し合いの時には、どうしても数名の学生が「他人事」のような参加になってしまうことでした。しかし

ながらアイランズを使うようになって、その悩みはすっかり解消されました。アイランズでは、机を三角形に組むことができるため、グループメンバーが程よい距離を保ちながら、お互いの顔が見える形で話し合いができます。そうなることさすがに「他人事」ではいられなくなります。さらにアイランズはオープンスペースのため、他の学生達の目もあります。そのことが学生達の集中と活発な意見交換を促しているように思います。学生達に集中して何かを取り組んでほしい時には、「環境」を整えることが非常に重要なのだということを再確認しました。

学生スタッフFSAの立場から



文学部
日本語・日本文学科 4年

K.Yさん

私は、第1期FSAとして活動し、現在は第2期FSAの研修・指導を行なっています。アイランズは、主に個人での自習、グループでの議論スペース、学生たちによる様々な活動の場として活用されているほか、開かれた教室として少人数の授業などにも使用されています。SA活動の始動初年度

であった昨年は、教室として利用される先生方へのサポートや学生の主体的な学びを支える環境を整備したほか、学生の書道作品や研究の展示なども行いました。今年度のスタッフは、また違う新しい使い道を模索しています。

私は1年間アイランズの運営に携わりながら、その間就職活動で実際の社会を体験しました。その中で実感したのは、SA業務を通じて身につけた、自ら働きかけて物事を動かすことの大切さです。教科書やノート、先生の指示を覚えることにとどまらず、そこから抜け出した先にある経験がとても役立っていると感じました。この貴重な気づきを、FSAを含めたたくさんの人々に体験してほしいと思います。

学校法人藤学園 藤女子大学 2017年度 決算諸表

2017年度 資金収支計算書

(単位：千円)

科目	大学 前年度	大学 決算額	法人 決算額
学生生徒等納付金収入	2,054,308	2,045,537	2,746,519
手数料収入	36,572	37,001	53,586
寄付金収入	18,208	12,533	61,670
補助金収入	196,223	193,297	1,111,030
資産売却収入	841,208	1,120,695	1,120,846
付随事業・収益事業収入	2,752	3,265	33,843
受取利息・配当金収入	9,095	7,906	18,633
雑収入	97,776	97,889	201,844
借入金等収入	600,000	0	0
前受金収入	752,120	707,823	801,697
その他の収入	2,432,549	1,227,796	2,008,954
資金収入調整勘定	△ 832,414	△ 842,389	△ 1,032,827
前年度繰越支払資金	1,270,702	1,100,959	2,350,962
収入の部 合計	7,479,099	5,712,312	9,476,757
人件費支出	1,594,431	1,589,395	2,960,748
教育研究費支出	378,653	485,382	728,440
管理経費支出	92,717	111,311	211,764
借入金等利息支出	3,409	4,332	4,332
借入金等返済支出	82,210	82,210	82,210
施設関係支出	1,214,036	219,591	229,436
設備関係支出	94,775	53,315	80,594
資産運用支出	2,888,849	1,675,685	2,246,529
その他の支出	48,355	46,783	163,854
資金支出調整勘定	△ 19,295	△ 34,288	△ 161,299
翌年度繰越支払資金	1,100,959	1,478,596	2,930,149
支出の部 合計	7,479,099	5,712,312	9,476,757

2017年度末 貸借対照表

(単位：千円)

科目	法人 前年度	法人 決算額
固定資産	19,607,636	19,195,859
有形固定資産	13,039,401	12,672,890
特定資産	6,494,836	6,455,788
その他の固定資産	73,399	67,181
流動資産	3,228,606	3,179,830
資産の部 合計	22,836,242	22,375,689
固定負債	1,594,112	1,500,304
流動負債	1,162,151	1,129,148
負債の部 合計	2,756,263	2,629,452
基本金	22,880,141	23,023,745
繰越収支差額	△ 2,800,162	△ 3,277,508
純資産の部合計	20,079,979	19,746,237
負債及び純資産の部 合計	22,836,242	22,375,689

藤女子大学 2017年度決算の概要

事業活動収支計算書のうち、教育活動収支の収入の部の合計は学生現員数の変動等により、前年度比12百万円減の23億82百万円となりました。一方、支出の部の合計は24億84百万円で、前年度比1億38百万円増加しました。これにより、教育活動収支差額が1億1百万円の支出超過となっていますが、この主な理由は、北16条校舎本館の解体費1億15百万円の支出です。なお特別収支では、建物の解体による除却費85百万円を計上しています。これらの結果、基本金組入前当年度収支差額は1億75百万円の支出超過となりました。基本金については、2018年9月竣工予定のチャペル棟の建設仮勘定とソフトウェア・図書資産の増加分を合わせて3億3千万円を組入れています。

資金収支計算書では、2015年度以降未収入金を計上していた耐震改築に係る施設設備補助金6億円が当年度交付されたこともあり、翌年度繰越支払資金は3億77百万円増の14億7千万円となりました。

当年度から使用を開始した新校舎は、i ラーニングスペース等を整備し、学生のための教学スペースの充実にも努めています。また北16条校舎本館解体後の場所には、本学の建学の理念を体現すべく、チャペル棟の建築に着手しており、今後も更なる教育環境の整備を進めてまいります。

2017年度 事業活動収支計算書

(単位：千円)

区分	科目	大学 前年度	大学 決算額	法人 決算額		
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	2,054,308	2,045,537	2,746,519		
	手数料	36,572	37,001	53,586		
	寄付金	18,208	12,533	61,670		
	経常費等補助金	195,555	191,017	1,108,750		
	付随事業収入	2,752	3,265	33,835		
	雑収入	97,776	97,889	200,986		
	教育活動収入計	2,395,171	2,382,242	4,179,886		
	人件費	1,593,160	1,577,085	2,946,244		
	教育研究経費	635,490	775,427	1,198,540		
	管理経費	116,158	130,922	247,334		
教育活動支出の部	徴収不能額等	454	631	631		
	教育活動支出計	2,345,262	2,484,065	4,392,749		
	教育活動収支差額	49,909	△ 101,823	△ 212,863		
	事業活動収入の部	受取利息・配当金	9,095	7,906	18,633	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	
		教育活動外収入計	9,095	7,906	18,633	
		事業活動支出の部	借入金等利息	3,409	4,332	4,332
			その他の教育活動外支出	0	0	0
			教育活動外支出計	3,409	4,332	4,332
			教育活動外収支差額	5,686	3,574	14,301
経常収支差額			55,595	△ 98,249	△ 198,562	
特別収支			資産売却差額	208	6,490	6,640
			その他の特別収入	12,335	9,401	66,351
	特別収入計		12,543	15,891	72,991	
	資産処分差額		14,511	87,192	201,033	
	その他の特別支出		0	6,102	7,138	
	特別支出計	14,511	93,294	208,171		
	特別収支差額	△ 1,968	△ 77,403	△ 135,180		
	基本金組入前当年度収支差額	53,627	△ 175,652	△ 333,742		
	基本金組入額 合計	△ 526,969	△ 330,106	△ 388,008		
	当年度収支差額	△ 473,342	△ 505,758	△ 721,750		
事業活動収入計	2,416,809	2,406,039	4,271,510			
事業活動支出計	2,363,182	2,581,691	4,605,252			

2018年度(平成30年度)入試報告

■藤女子大学総計

学部	学科	募集	出願	受験	合格	入学
文学部	英語文化学科	80	354	345	201	93
	日本語・日本文学科	80	292	290	224	83
	文化総合学科	80	314	312	231	107
	計	240	960	947	656	283
人間生活学部	人間生活学科	80	257	253	237	57
	食物栄養学科	80	263	261	196	88
	保育学科	80	180	180	153	74
	計	240	700	694	586	219
合計		480	1660	1641	1242	502

□一般入学試験 (A日程) ※試験1日目・2日目合計

学部	学科	募集	出願	受験	合格
文学部	英語文化学科	44	250	241	129
	日本語・日本文学科	34	128	126	88
	文化総合学科	36	227	225	170
	計	114	605	592	387
人間生活学部	人間生活学科	30	92	88	80
	食物栄養学科	32	139	137	87
	保育学科	38	90	90	79
	計	100	321	315	246
合計		214	926	907	633

□一般入学試験 (B日程)

学部	学科	募集	出願	受験	合格
文学部	日本語・日本文学科	10	18	13	10

□大学入試センター試験利用入学試験 (A日程)

学部	学科	募集	出願	合格
文学部	英語文化学科	5	59	37
	日本語・日本文学科	10	111	93
	文化総合学科	4	52	32
	計	19	222	162
人間生活学部	人間生活学科	12	132	125
	食物栄養学科	14	75	51
	保育学科	3	49	35
	計	29	256	211
合計		48	478	373

□大学入試センター試験利用入学試験 (B日程)

学部	学科	募集	出願	合格
文学部	英語文化学科	3	12	7
	日本語・日本文学科	3	9	7
	文化総合学科	4	19	13
	計	10	40	27
人間生活学部	人間生活学科	6	15	14
	食物栄養学科	2	8	6
	保育学科	2	0	0
	計	10	23	20
合計		20	63	47

□公募推薦入学試験

学部	学科	募集	出願	受験	合格
文学部	英語文化学科	15	30	30	25
	日本語・日本文学科	15	21	21	18
	文化総合学科	20	8	8	8
	計	50	59	59	51
人間生活学部	人間生活学科	22	12	12	12
	食物栄養学科	16	38	38	38
	保育学科	25	35	35	32
	計	63	85	85	82
合計		113	144	144	133

□その他、藤学園系列高等学校との間に姉妹校推薦入学試験、カトリック協定高等学校との間にカトリック校推薦入学試験があります。

□社会人入学試験

学部	学科	募集	出願	受験	合格
文学部	英語文化学科	若干名	0	0	0
	日本語・日本文学科	若干名	0	0	0
	文化総合学科	若干名	0	0	0
	計		0	0	0
人間生活学部	人間生活学科	若干名	0	0	0
	食物栄養学科	若干名	0	0	0
	保育学科	若干名	0	0	0
	計		0	0	0
合計			0	0	0

□藤女子大学大学院

研究科	専攻	募集	出願	受験	合格
人間生活学	人間生活学専攻	8	3	3	3
	食物栄養学専攻	8	7	7	7
合計		16	10	10	10

2017年度 藤女子大学・大学院 進路就職状況

最新情報は本学HPに掲載いたします。【就職状況】http://www.fujijoshi.ac.jp/career/affair/a_latest/ 【就職先一覧】http://www.fujijoshi.ac.jp/career/list/l_latest/

〈大学〉

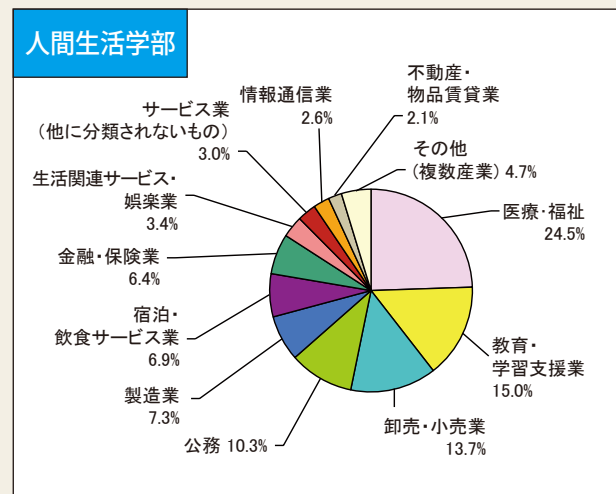
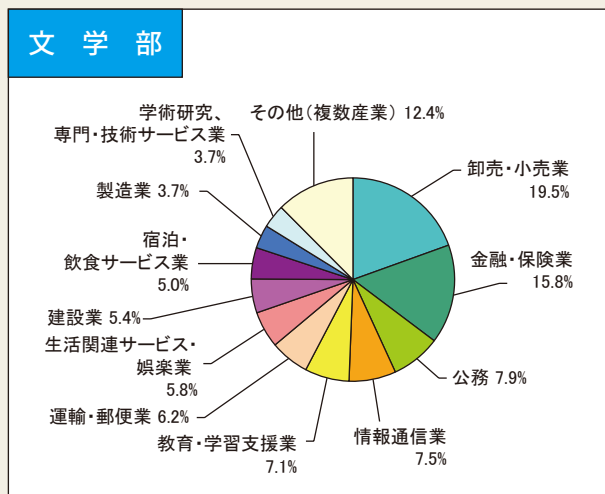
2018年5月1日現在

	卒業 者数 ※1	卒業後の進路						その他 ※2
		進学		就職		就職率		
		希望数	決定数	希望数	決定数			
文 英語文化学科	95	2	2	90	86	95.6%	3	
日 日本語・日本文学科	79	2	0	73	66	90.4%	4	
文 文化総合学科	99	0	0	95	89	93.7%	4	
学 学部計	273	4	2	258	241	93.4%	11	
人 人間生活学科	84	3	2	72	67	93.1%	9	
食 食物栄養学科	93	5	5	84	83	98.8%	4	
保 保育学科	86	2	2	83	83	100.0%	1	
学 学部計	263	10	9	239	233	97.5%	14	
合 計	536	14	11	497	474	95.4%	25	

		就職先内訳							
		企業等		専門職(福祉・栄養・保育)		教員		公務員	
		希望数	決定数	希望数	決定数	希望数	決定数	希望数	決定数
文 英語文化学科	82	80	—	—	3	2	5	4	
日 日本語・日本文学科	61	55	—	—	4	4	8	7	
文 文化総合学科	84	79	—	—	1	1	10	9	
学 学部計	227	214	—	—	8	7	23	20	
人 人間生活学科	54	50	8	7	6	6	4	4	
食 食物栄養学科	45	45	29	28	2	2	8	8	
保 保育学科	16	16	34	34	20	20	13	13	
学 学部計	115	111	71	69	28	28	25	25	
合 計	342	325	71	69	36	35	48	45	

※1：年度途中の卒業者を含む。※2：主婦・社会人入学者を含む。

〈就職先産業別比率〉



〈大学院〉

人間生活学研究科	修了 者数	修了後の進路				
		進学		就職※		その他
		希望数	決定数	希望数	決定数	
人間生活学専攻	2	0	0	2	2	0
食物栄養学専攻	4	0	0	4	4	0
合 計	6	0	0	6	6	0

人間生活学研究科	就職先内訳							
	企業等		専門職(福祉・栄養)		教員		公務員	
	希望数	決定数	希望数	決定数	希望数	決定数	希望数	決定数
人間生活学専攻	0	0	0	0	2	2	0	0
食物栄養学専攻	2	2	2	2	0	0	0	0
合 計	2	2	2	2	2	2	0	0

※社会人(職場復帰)を含む。

2017年度卒業生の就職状況は、就職希望者に占める就職者の割合が大学全体で9割を超える例年どおりの結果となりました。

昨年からは、従来の体験型インターンシップに加え、ワンデーインターンシップなど気軽に参加できるものが増えることで、活動が早期から始まった印象です。今年の傾向として、説明会の参加率の低下とエントリー社数の減少が挙げられます。業界研究や企業研究の少なさから、現在進んでいる選考結果が出たときに再出発をする学生が増えると予測されます。結果として、企業の募集活動が早期化したことに伴い、一部の学生については長期の就職活動を余儀なくされる可能性が出てきます。昨今の「女性活躍推進」や「働き方改革」など女性が社会で働くことへの追い風が吹いており、女子学生を積極的に採用したいとする企業等の本学訪問も増えていきます。しかし、就職環境に改善の兆しが見える時こそ、雰囲気やイメージだけに流されず、地に足の着いた地道な就職活動を大事にしてほしいと考えています。

2019年度入学生からは2年次前期に「女性とキャリアⅡ」(文学部にて)を開講し、卒業後の進路を自分自身でイメージできるサポートをしていきたいと思っています。

大学へのご支援ありがとうございます

藤女子大学の寄付募集活動は、みなさまの温かいご支援により、2012年度からの累計額が1億3,900万円に達しました。寄付募集につきまして深いご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。ここに感謝の意を表しご芳名を掲載させていただきます。

寄付者ご芳名 (第12回) 期間 2017年10月1日～2018年3月31日 (敬称略・お申込み順)

〈保護者〉	〈卒業生〉				〈旧教職員・旧役員〉	〈教職員・役員〉	〈その他、法人等〉
渡辺 美子 匿名 5名	中塚智恵子 増田 都子 大野 紀子 計 6名	中野 洋子 阿知波真知子 沼本かおる 山下貴三代 根本 祐子 中町 瑛子 阿部 洋子 伊藤 元子 今井 隆子 山中 美穂 川崎 桃子 小澤 宣子 佐藤 史子 藤久 晶子 澁谷 眞希(ホクシン・エステート(株))	竹内深恵子 阿部和加子 齊藤 和枝 藤原 和恵 諸留智恵子 大野 芳枝 伊藤 元子 今井 隆子 山中 美穂 川崎 桃子 小澤 宣子 佐藤 史子 藤久 晶子 澁谷 眞希(ホクシン・エステート(株))	江洲 曜子 土橋 典子 市村 美子 食物栄養学科 第6期生 (横山 真紀) 匿名 31名 計 77名	長谷部 清 大川壽美子 三浦 良一 計 3名	永田 淑子 佐々木壽幸 田口 恭子 木村 晶子 山崎 玲子 匿名 1名 計 6名	藤の実会 (医)阿部小児科医院 (宗)殉教者聖ゲオルギオの フランススコ修道会 匿名 1名 計 4名
計96件 9,593,201円							
・受配者指定寄付金 (株)メディカルシステムネットワーク							

■寄付実績・用途のご報告

2017年度寄付受入 実績報告 (2017年4月～2018年3月末)

総計 153件 10,983,201円

2017年度寄付金額総計10,983,201円のうち、用途指定のある寄付収入(特別寄付金)は5,315,000円でした。※チャペル建設資金、聖具整備代として一般寄付金5,668,201円のうち、1,000,000円を奨学研修の積立金へ、4,668,201円を施設整備の積立金へ組入れすることといたしました。

現在、学生支援体制のさらなる充実のため、新型奨学金制度の創設を予定しております。今後とも、ご支援をいただければ幸いです。

〈内訳〉

保護者	48件 1,000,000円
卒業生	82件 1,635,158円
旧教職員、旧役員等	8件 1,120,000円
教職員、役員等	10件 1,328,043円
その他	5件 5,900,000円

**北16条キャンパスに
チャペル棟を建築中
9月完成予定**





海外留学

韓国カトリック大学での留学生活

文学部
文化総合学科 3年 K.Aさん



韓国での留学が始まり4か月ほど経ちました。藤女子大学からの韓国留学派遣は今学期、私一人だったため、留学当初は不安でしたが、韓国の生活にも少しずつ慣れてきました。今回は韓国の大学での授業とサークルについて紹介したいと思います。

まず、勉学面について紹介します。午前中は語学堂という韓国語の授業を受け、午後は学部授業を履修しました。語学堂を受講して良かった点は様々な国の人と交流できたことです。私の教室では、台湾・中国・ベトナム・イタリアの人たちがいましたが、国別にその日のテーマに沿って韓国語で話すことが多く、韓国だけでなく他の国の文化に触れあう機会がたくさんありました。そのため、新しい発見をすることができ、視野の広がる良い経験だったと思います。また学部授業では、全体的に日本の授業よりも発表をする機会が多かったことがとても印象的でした。発表を通して、もっと上手にプレゼンをやりたいという意欲も湧きました。



韓国の有名な遊園地エバーランドで、語学堂の仲間と

また、個人的にサークル活動にも力を入れようと思い、英語サークルに入りました。サークルに入ろうと思った理由としては日本よりも早期英語教育を受

けてきた韓国の方々と英語の勉強を定期的にしたかったためです。活動内容としては主にTOEICの勉強、英会話の練習をグループで行っています。たまにイベントなどもあり、英語の上達だけではなく、韓国の方々との交流もすることができます。



語学堂の仲間たちと

前期は、語学力向上を目標に語学堂に力を入れてきました。後期は、学部授業に力を入れ、より多くの韓国の学生と交流し、悔いの残らない留学生活を送っていきたいと思います。

◆前期時間割

	月	火	水	木	金
9:00～12:50	語学堂 (留学生のための韓国語授業)				
13:00～13:50					
14:00～14:50					グローバル 政策問題と 国際開発協力
15:00～15:50		韓国語表現 教育論		日韓翻訳の 理論と実際	
16:00～16:50					
17:00～17:50					

国内留学

国内留学で得ることができた学びと出会い

人間生活学部
人間生活学科 4年 N.Kさん



アルバイト先の友人たちとイルミネーションを見にお台場へ

私は2016年4月から1年間、国内留学生として上智大学総合人間科学部教育学科に所属し国際教育について学びました。国内留学を志したのは、本学で履修した教育に関する授業が興味深く、グローバルな上智大学であれば日本のみならず海外の教育事情を学べると

さんの出会いのおかげでもあります。

学内のほか、アルバイト先や寮などでチャレンジ精神旺盛な友人達の姿に刺激を受け、私も視野を広く持つことを意識し何事にも積極的に取り組もうという意識が強くなりました。このように国内留学では人との出会いを通して、内面的な成長を実感した1年でした。

現在私は「先進国における小学生の放課後の過ごし方」というテーマで本学の卒業研究に取り組んでいます。上智大学で学ぶ中で関心を持った初等教育について、日本と諸外国を比較しながら学びを深めたいと思っています。

思ったことがきっかけです。

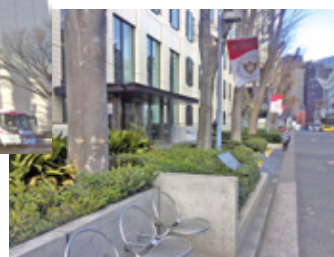
上智大学での生活は私の価値観を広げるものとなりました。上智大学には40カ国から学生が集まっており、食堂では食事の制限が多いムスリムの学生向けにハラールフードが提供されていたり、授業ではそれぞれの国の価値観を共有する機会があるなど、グローバルな環境を肌で感じることができました。

学業面では、周囲の学生と国際教育に関する知識量の差があり、グループディスカッションで思うように発言できず苦しい時期がありましたが、読書や国際教育関連の講演会に参加するなどして理解を深め、乗り越えることができました。それは国内留学中に得たたく



▲最寄り駅の四ツ谷駅から見た上智大学

▼普段は多くの学生でにぎわう2号館前



藤女子大学は学生の様々なチャレンジを応援します!

剣道部



剣道部 部長
文学部
英語文化学科 4年
K.Nさん

剣道部は昨年、団体戦で北海道予選優勝となり、藤女子大学初の全国大会出場を成し遂げました。数年前から目標として掲げ目指していた全国大会出場。成し遂げられた陰には今まで剣道部を継承して下さった先輩方や多くの方の支えがあります。また、部員一人ひとりが日々稽古で努力を重ねるとい



全国大会にて



全国大会試合開始

チャレンジを続けた結果です。愛知県春日井市で行われた全国大会、全国から集まった多くの選手、観客が見守る中、北海道代表として“藤女子大学”の校名が呼ばれた入場行進での光景は私の中で忘れることができないものとなっています。試合では優勝校となった日本体育大学と一回戦で対戦し、実力の差を痛感しましたが、全国トップの強豪校と試合をしたことは選手にとって大きな刺激となり、北海道に戻ってからも熱の入った稽古を続けています。

今年の目標もちろん、全国大会出場です。そして、全国の舞台で一つでも多く勝つことです。その目標に向かい、部員一人ひとりが日々の努力、チャレンジを続けています。

国際ボランティア



人間生活学部
食物栄養学科 4年
U.Nさん

私は国際ボランティアNGO NICEのプログラムで、東南アジアのラオスとフィリピンのボランティアに参加してきました。ラオスでは、ガスや水道のない生活を送りながら、子供たちへの英語の教育や、水を貯めるタンクの設置等を行いました。



大空の下のキッチン

質素な生活の中でも現地の人たち、そして子供たちも互いに支え合いながら暮らし、他人同士の距離の近さや人の優しさを強く感じました。フィリピンでは、現地の小学校に滞在してペンキ塗りやガーデニングを行い、ほとんどの時間を現地の子供たちと一緒に過ごしていました。また、フィリピンの学校ではFamilyNightという行事に参加させていただきました。生徒と家族、教師が参加する行事ですが参加者全員が一つのファミリーであるような信頼や愛情をそこから感じる事が出来ました。そして、今後はそのような国際ボランティアで出会って来たような人たち、子供たちがこれからも笑顔で健康に暮らせるよう取り組んでいきたいと考えています。



ラオスの子供たち(英語の教育)

素顔の先生 第8回

人間生活学部 保育学科

新海 節先生



「素顔の先生」第8回目は人間生活学部保育学科で音楽分野の科目を担当されている新海節先生にインタビューをしました。学生時代のお話や、今後の目標など貴重なお話を伺い、先生の素顔に迫りました。

Q1. 藤女子大学にはどのような印象を持っていますか。

大学の印象としては、とても落ち着いた雰囲気があると思っています。そして、学生の品の良さを感じています。また、これは、感覚的なことなので上手く説明できないのですが、両学部の空気の違いが面白いと思っています。何となくですが、学生、教職員、校舎を含め、16条キャンパスに行くとき優美さを、花川キャンパスでは純朴さを感じています。

Q2. なぜ音楽の道に進もうと思ったのですか。

私は左利きなのですが、右手もよく使えるようにという理由で6歳の時にピアノを習わされたのが、始まりです。その後、ピアノを続けると共に、音楽系の部活に所属していましたので、常に音楽に触れる機会があり、漠然と音楽に関わる仕事に就きたいと思っていました。音楽を続けることが大変な時期もありましたが、現在では、本学に勤めながら研究対象として、音楽を続けることができています。本当に運が良いなと思っています。

Q3. どのようなキャンパスライフを送っていましたか。

高校の教員になりたいと思い、国立音楽大学で音楽教育を専攻していました。専攻には180人の学生がいたのですが、男性が9名しかおらず、自然と団結力が生まれ、切磋琢磨しながら学生生活を送りました。勉強の方は教員になりたいという思いがなくなってしまい、一時期はアルバイトに精を出す時期がありましたが、ゼミの先生

から学ぶことの楽しさを教えてもらい、やる気を取り戻したことを覚えています。

Q4. 学生時代に経験しておいた方が良いと思うことは何ですか。

何でも良いので、無我夢中に取り組む経験をしていただいた方が良いと思います。私自身は大学院生の時に良い先生と出会い、ピアノを弾くことに夢中になりました。音楽で食べていくことは難しいことですので、将来の不安はありましたが、後先の事を考えず取り組むことができた経験は、自分の人生の糧となっています。また、何かに真剣に取り組む過程では、つらいこともたくさんありますが、投げ出さないということも重要だと思います。これも自分の経験ですが、20代はピアノを続けていく中で、金銭的な理由から、もうピアノはあきらめた方が良くないかな、と思う時期もありましたが、そんな中でも一生懸命取り組んでいると、誰かが手を差し伸べてくれたり、急に職が決まったりと運の良いことがおきました。

Q5. 先生の今後の目標を教えてください。

私は今年で41歳になり、なんとなく人生の後半戦に突入したと思っています。そんな中、残りの人生の目標を昨年末に考えていました。「生活の基盤となる家族を大事にする」、「ピアノリサイタルを継続的に行う」、「ピアノ伴奏に関する学術的な研究を推進する」、「藤女子大学がより良い大学になるように職務を全うする」というのが、今後の目標です。



人間生活学部
保育学科 4年
A.Sさん

新海先生へのインタビューで一つの事に熱中し真剣に取り組むことは自分自身の将来の道を大きく切り開ききっかけになるという事を学ばせていただきました。残り少ない学生生活、目標をもって充実させたいと思います。



人間生活学部
保育学科 4年
I.Yさん

このインタビューを通じて、新海先生は強運の持ち主であり使い手であることが分かりました。普段の活動の中では知ることのできない先生のエピソードを知ることができて非常に楽しい時間となりました。



人間生活学部
保育学科 4年
U.Yさん

どこかミステリアスで魅力的な新海先生について、このインタビューでもっと知ることができて面白かったです。悩みや葛藤を抱えながらも、途中で投げ出さず無我夢中で取り組むことは大切に素敵なことだと感じました。

今回は、初代教会の遭遇した迫害についてでした。その後、キリスト教がローマ帝国において公認された4世紀から、教会の発展期が始まりました。長い中世はそのような時代であったといえるでしょう。

教会の勢力が強くなるにしたがって、教会は世俗的な力も強くなり、それによって聖と俗との均衡が危うくなるがありました。そのような時代にも多くの聖人たちが現れ、教会の刷新に力となりました。アシジの聖フランシスコもそのような聖人の一人です。

また、教会の刷新運動としてプロテスタンティズムが生まれ、カトリック教会はそれに対抗して自らを刷新する運動を強くしました。アヴィラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネによるカルメル会刷新運動や、聖イグナチオ・ロヨラによるイエズス会創立は、その代表と言えます。病者の世話や貧者の救済・教育などのためにも、多くの修道会が創立されました。

また、東洋やアメリカ大陸への航路が発見されるなど、新しい未知の世界との出会いから、世俗権力が利益獲得を追求したと同時に、教会はキリスト教を知らない人々に宣教師を送って宣教活動を始めようになり、イエズス会はその先鋒となりました。現代の視点から見ると、かなり強引な方法で住民をキリスト教化したことがあるのを否定でき

ません。これについては、西暦2000年に時の教皇ヨハネ・パウロ2世が、この2000年の間に教会が犯した罪・過ちとして、全世界に向かって公に謝罪されました。

イエズス会の創立者イグナチオ・ロヨラは、インドを植民地にしていたポルトガル王の願いにより、1541年に宣教師をインドに派遣しました。この時に派遣される予定であったイエズス会士が出発直前に高熱を出したため、代わりに派遣されたのがフランシスコ・ザビエルです。ザビエルはインドのゴアを中心に宣教活動を行いました。そのうちにマラッカ、モルッカ諸島で宣教活動をしました。そこで日本人ヤジローと出会ったことをきっかけとして、日本での宣教を考え始め、ついに1549年8月に鹿児島に上陸しました。日本人たちとキリスト教との最初の出会いです。



聖イグナチオ・ロヨラ



聖フランシスコ・ザビエル

藤女子大学 未来共創フォーラム 2018

「いのち・社会・女性 ～藤から地域社会への発信～」

参加費無料

第3回

テーマ

文学から読み解く女性と社会

10/20

講師：小山 清文・関谷 博（本学文学部日本語・日本文学科教授）

第4回

テーマ

女性の生きづらさと社会的支援
-さまざまな居場所づくりの実践-

11/10

コーディネーター：隈元 晴子（本学人間生活学部食物栄養学科准教授）

会場

藤女子大学 北16条キャンパス
（札幌市北区北16条西2丁目）

時間

開催時間はいずれも

13:00～15:00（開場12:30）

参加お申し込み

事前に本学ホームページ上からお申し込みください。 <http://www.fujijoshi.ac.jp>

※9月以降申込み受付開始予定です。※各回のみのお聴講も可能です。

発行 藤女子大学 編集 広報「藤」編集委員会

北16条キャンパス 〒001-0016 札幌市北区北16条西2丁目 TEL (011) 736-0311 FAX (011) 709-8541
花川キャンパス 〒061-3204 石狩市花川南4条5丁目 TEL (0133) 74-3111 FAX (0133) 74-8344

ホームページアドレス <http://www.fujijoshi.ac.jp>